

## Journal of The Infosociomics Society

### Foreword

### VOLUME6 No2,2012

はじめに

情報社会学会会員の皆様

『情報社会学会誌』第6巻第2号をお届けいたします。  
本号は、査読審査を経た原著論文3本とワークショップ報告書を掲載いたしました。  
論文は、いずれも時期にかなった興味深いテーマが取り上げられました。

原著論文「OSS 開発における不具合修正プロセスの現状と課題:不具合修正時間の短縮化へ向けた分析」は、本論文の主目的である効率的 OSS 開発手法の研究は、情報社会にとって重要な課題で、着眼点は評価できます。大規模 OSS プロジェクトにおける不具合修正プロセスの課題を明らかにしケーススタディをおこなった研究です。今後実証実験の結果に期待をしたいと思います。

原著論文「グローバル環境下における OSS 開発者の情報交換に対する時差の影響」は、OSS は世界中に点在する開発者により開発され、情報交換を行うことにより高品質なソフトウェアを生産し、ソフトウェアのバグの修正を行っており、大規模な複数の OSS プロジェクトを短時間に低開発コストで生産することは必要性があります。今後さらなる検証に期待をしたいと思います。

原著論文「Q&A サイトで複数のアカウントを不正に用いるユーザの検出:複数の回答者であるかのように装うユーザについて」は、ユーザ同定の定量評価が行われ、学習データに含まれる回答数と精度の関係などの分析が行われています。考察の一部には有益な知見が含まれています。複数アカウントを持つユーザを検出するタスクの定量評価は難しいとは思いますが、このタスクの評価かそれを模擬した評価があれば説得力が高まると思われます。

巻末には、本年度実施のワークショップの報告を掲載いたしました。

会員の皆様からの積極的な論文の投稿をお願いいたします。

2012年3月25日

情報社会学会編集委員会  
委員長 大橋 正和